

## 再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：下保 修

<b>事業名</b> 地域高規格道路 一般国道175号西脇北バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b> 自：兵庫県西脇市下戸田 至：兵庫県西脇市黒田庄町大伏	<b>延長</b> 5.2km	
<b>事業概要</b> 東播丹波連絡道路は、北播磨地域と丹波地域の連絡を強化するとともに、山陽自動車道、中国縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道と一体となって広域交流を促進する延長約30kmの地域高規格道路である。西脇北バイパスは、東播丹波連絡道路の一部を形成し、西脇市から中国縦貫自動車道滝野社ICへのアクセス向上、西脇市北部の一般国道175号の交通の円滑化、交通安全の確保等を図るために計画された延長5.2kmの4車線道路である。		
H9年度事業化      H10年度都市計画決定      H12年度用地着手      H18年度工事着手		
<b>全体事業費</b> 400億円 <b>事業進捗率</b> 21% <b>供用済延長</b> 0.0km		
<b>計画交通量</b> 27,900台/日		
<b>費用対効果分析結果</b> B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 2.0	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 270/360億円 (事業費：238/329億円) (維持管理費：32/32億円)	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 541/541億円 (走行時間短縮便益：518/518億円) (走行費用減少便益：17/17億円) (交通事故減少便益：6.2/6.2億円)
<b>基準年</b> 平成19年		
<b>感度分析の結果</b> 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.2（交通量+10%）      B/C=1.8（交通量-10%） 事業費変動：B/C=1.8（事業費+10%）      B/C=2.2（事業費-10%）		
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保（現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される） ・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路の位置づけあり）		
他11項目に該当		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 西脇北バイパスは、交通混雑の緩和、沿線地域の活性化等に重要な役割を果たすことが期待されており、西脇市や丹波市をはじめとする6市の首長で構成される一般国道175号整備促進期成同盟会や、兵庫県等から早期整備の要望を受けている。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成17年10月1日には西脇市、黒田庄町の合併により新「西脇市」が誕生した。西脇市の人口は減少傾向にあるが、人口千人当たりの自動車保有台数は兵庫県平均値と比べて著しく高く、自動車への依存度が高い状況である。また、西脇市の伝統的産業である播州織・播州釣針の生産額は、ともに減少傾向にある。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成18年度から工事着手し、用地買収は82%（平成19年9月末時点）が完了している。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 平成9年度に事業化し、平成12年度より用地買収、平成18年度に工事着手したところであるが、全線に渡り埋蔵文化財が分布しているため、平成16年度から文化財調査を開始している。平成24年度的全線暫定供用を目指し、事業の円滑な推進を図るため関係機関との調整を進めている。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 建設発生土を有効利用する等コスト縮減を図っていく。		
<b>対応方針</b> 事業継続		
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
<b>事業概要図</b>		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。